

ビルマの豎琴は音もなく

たてごと
—ミャンマーのパゴダ巡り—⑤

斉藤久仁子



くびながびじん
首長美人、パダウン族

ミャンマーの地図を見ると、国の真ん中に南北に細長い大きな湖がある。インレー湖だ。湖北のホテルに夕方着くや、ホテルの人が「近くに首長族の家族が住んでいるので見に行かないか」と言う。なんでも、タイ国境近くの村から見世物になる（させられた？）ために移住した少数民族の人達だという。当人にとっては伝統的な習慣が、全世界的な目にいかに奇習として映るとしても、見世物に



させられるとは気の毒だ。民族の名はパダウン族。見ておくかと、ホテルの男性の後について行く。たゞ私一人が見に行こうが行くまいが、その家族がこの地に住まわせられていることに変わりはない。なら

え、両側に木造二階建ての家がある所へ来た。手前でホテルの男が見物料を集めた。左の二階建てから赤や黄のきれいな布を頭にはなやかに巻いた小柄なほっそりした女性が、脚絆きょうはんばきの素足でひよろひよろといった感じで出

て来た。首に直径一寸もありそうな太い金属線を十段くらいもぐるぐる巻きにして重そうなので、すぐ首長族と知れる。寂しそうな表情をしている。手にも首と同じくらいの数の腕輪をはめている。これは、かつての中国の纏足てんそくに次ぐ不自由さだろう。女性は、どこか幼さの残る顔つきで、三十前に見えたが、四十歳だそう。後ろから中年の男性がバイオリン様の楽器を手に出してきた。女性の夫だそう。と、右の二階建てから、十二・三歳くらいと十歳くらいとおぼしき二人の

少女が、これも首に金属線を巻き、頭の布も脚絆も腕輪も中年女性と同じ恰好をして出てきた。夫妻の姪で、いとこどうしだそう。首輪は金色に輝いている。柔らかない上の銅だそう。貴重な財産だから、当人が死ぬとお墓へいっしょに埋葬するという。

手作りだというバイオリンを奏で、哀愁を帯びたゆつたりした曲に合わせて歌っていた。三人の首長美人は踊り始めた。しかし、そこに掛かっていた手織りのスカーフを手にして振りながら足を前後するのみで、とても踊りとは言えない。だが考えてみると、あの重い輪をつけた腕と長い首では、これ以上の動きは出来ないのかも知れない。少女達は少し笑顔も見せるが、女性はその悲しそうな表情を変えなかった。

歳上の少女は女性と同じくらい十五歳もありそうな長さの首で、幼い方の少女は輪がまだ二三段少ない。これから数年かけて輪を足し、おばたちと同じほどに伸ばすのだろうか。男が、

二〇〇七年六月二十二日 本通支坊でプレイベントに行われるキャンドルナイト呉のためのプレイベントとして、去る六月十日、蔵

キャンドルナイト呉 プレイベント in 西教寺

二〇〇七年六月二十二日 本通支坊でプレイベントに行われるキャンドルナイト呉のためのプレイベントとして、去る六月十日、蔵

気を消してローソクで過ごそうというイベントで、全国的に広まっている運動です。このたび、くれ環境市民の会・消費者協議会が中心となって、呉でも呼びかけようということになりました。十日は、残ロウを一度使用したローソクを再生してアロマキャンドルを作りました。二十二日当日は、中央公園などを会場に、そのローソクを灯してさまざまなイベントが行われました。



イベント in 西教寺の様子

安芸南組 第五期 連研へどうぞ

あきなんそ

安芸南組（近隣の本願寺派寺院五十四ヶ寺）は、本願寺会館（呉市本通）で連続研修（略して連研・れんけん）を行っています。三月で第四期が終了し、現在第五期の参加者を募集しています。二年間（年八回で四千円）の研修です。



話し合い法座の様子

一方通行の講義形式ではなく、話し合い形式で行われます。新しい出会いもあり、色々な考え方を聞くことができます。全くの初心者でも安心して参加できる研修をめざしていますので、聞くだけでもOKです。立派な意見をいう必要なんかありません。普段のままの私たちが、普段感じていること



お寺の残ロウを再利用してアロマキャンドルを作り、この日だけ研修を夜に変更して灯しました。最後に憲法九条の「9」の形にしてパチリ。

を話したり、聞かせてもらったりして、お互いが何かに気づいたり、成長できれば素晴らしいことだと考えています。

一応テーマがあったて、宗教、仏教、真宗について、また、身近なところでの個人や家族などの老い、病い、死などの問題、仏事作法、さらに参加者自身が学びたいテーマを設定して学習したりもします。連研では、さらに広がって、現代社会が抱えているさまざまな問題も扱います。第四期連研では、地球温暖化（環境問題）やイラク問題、改憲問題（憲法九条）、差別などの問題も取り上げられ、私たちが（もしくはは仏教徒が）どう向き

セイブ・ザ・イラククルドレン 広島の大江厚子さん。アメリカが撃ち込んだ劣化ウラン弾は、1億年以上も放射能を出し続ける。イラクは今、先天性異常の赤ちゃんや小児癌が急増し、大変なことになっているが、痛み止めの薬さえ手に入らない。



合って生きるのか、皆で考えたりしました。春です。心機一転「連研」でお会いしましょう。

第二回は五月十八日です。参加ご希望の方はお寺まで急ぐ「報下」。